

中学校英語スピーキングテスト (ESAT-J YEAR 1及びESAT-J YEAR 2) 令和5年度実施状況について

令和6年6月13日
教 育 庁

ESAT-J YEAR 1 (Y1) : 第1学年対象、ESAT-J YEAR 2 (Y2) : 第2学年対象

1 実施概要

- (1) 日程
令和6年1月22日(月)から3月15日(金)までの期間内で実施
- (2) 会場
都内公立中学校 636会場
- (3) 受験人数
134,878人 (Y1 67,662人、Y2 67,216人)
- (4) 使用機器
専用タブレット端末及びヘッドセット



2 ESAT-J YEAR 1及びESAT-J YEAR 2の出題形式、評価の観点及び測定範囲

(1) 出題形式及び評価の観点

Part	形式	内 容	問題数		評価の観点
			Y1	Y2	
A	音読	英文を声に出して読む。	1	2	音声(発音と強勢、音読するペースや間の取り方などが適切か。)
B	会話	質問に答える、相手に質問する。	3	4	コミュニケーションの達成度(求められていることに適切に対応しているか。)
C	イラストの説明	イラストの内容を説明する。	1	1	言語使用(語彙や文法、文構造の使用が適切か。)
D	ナレーション	イラストに描かれている内容について伝える。	1	1	音声(発音、話すペースや間の取り方などが適切か。)

(2) 各テストの測定範囲と目標レベル

ESAT-J GRADE	YEAR 3	YEAR 2	YEAR 1	参考CEFR-J(※)	参考CEFR
A				A2.2	A2
B				A2.1	A2
C				A1.3	A1
D				A1.2	A1
E				A1.1	A1
F				PreA1	PreA1

測定範囲と目標レベルの図解:
 測定範囲: YEAR 2 (Y2) の範囲 (A1.1 ~ A2.2)
 目標とするレベル: YEAR 1 (Y1) の範囲 (A1.1 ~ A1.3)

※ CEFR-Jは、外国語能力の参照基準であるCEFRを基に、日本の英語教育での利用を目的に作られた英語能力指標
 ※ 参考CEFR-Jレベルは、各学年の測定範囲より高いレベルの場合でも、測定範囲内の一番高いレベルで表示

3 結果①

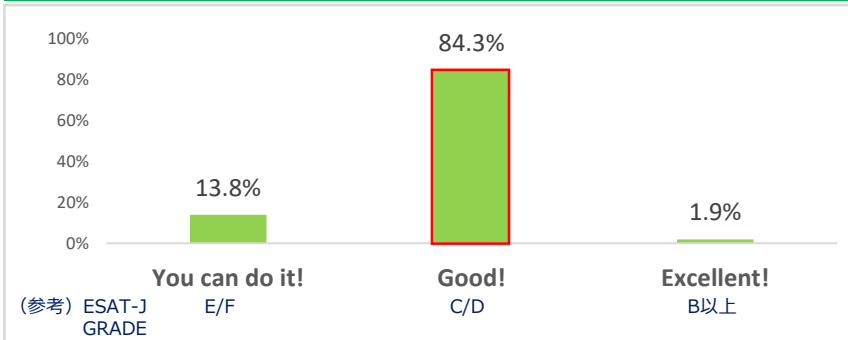
- (1) 総合評価
各テストの目標とするレベルに到達しているかどうかを3段階で総合的に評価。



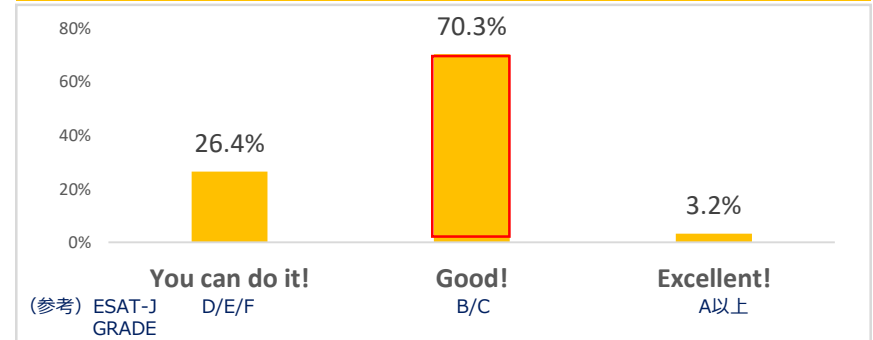
Excellent! 目標とするレベルを超えている。
Good! 目標とするレベルにある。
You can do it! 目標とするレベルまでもう少し。

※ グラフは、小数第二位を四捨五入しているため、合計値は必ずしも100%とはならない。

ESAT-J YEAR 1



ESAT-J YEAR 2



Y1では86.2%、Y2では73.5%の生徒が、それぞれの学年で目標とするレベルに達している又は目標とするレベルを超えている。

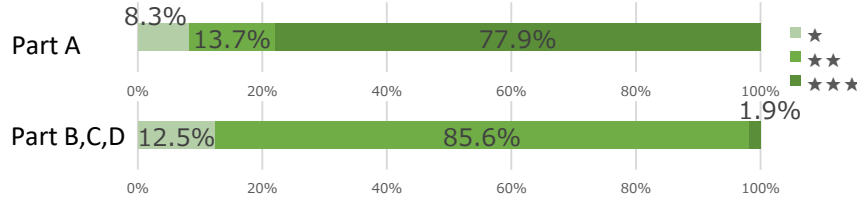
3 結果②

(2) Part 別評価

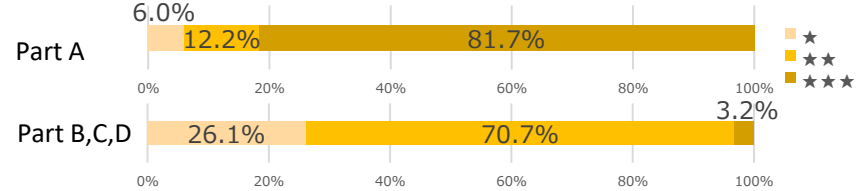
※ グラフは、小数第二位を四捨五入しているため、合計値は必ずしも100%とはならない。

Part A (音読) とPart B,C,D (会話、説明、ナレーション) に分け、それぞれで達成できたことにより、★の数で3段階評価「★」「★★」「★★★」

ESAT-J YEAR 1

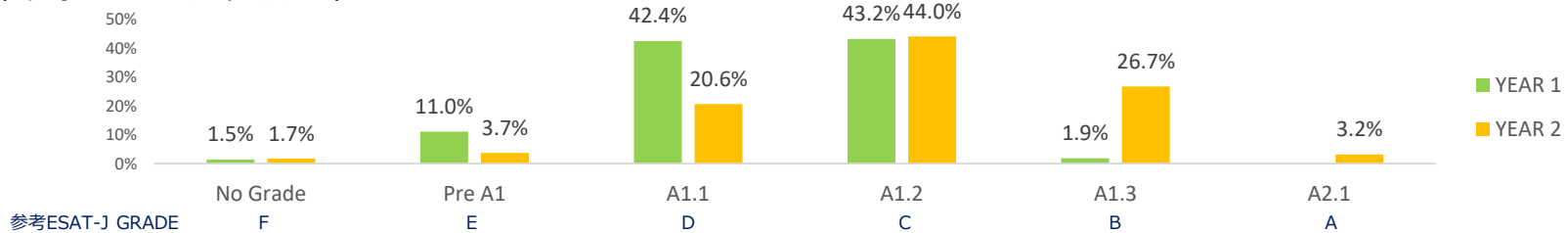


ESAT-J YEAR 2



- Part Aにおいては、Y1・Y2ともに90%を超える生徒が「★★」以上を獲得しており、聞き手が理解できるように読むことができています。
- Part B,C,D においては、Y1では87.5%の生徒が「★★」以上を獲得し、簡単なやり取りや、どこに何があるのかを説明したり、自分の日常生活について話したりすることができています。Y2では73.9%の生徒が「★★」以上を獲得し、簡単なやり取りや、何がどこにあるのか、誰が何をしているのかを説明したり、過去の出来事について話したりすることができています。

(3) 参考CEFR-Jレベル (Y1及びY2)



- YEAR 1の受験者の約8割は、A1.1レベルとA1.2レベルにあり、簡単な語句を並べてやり取りをしたり、自分のことや物の位置などについて、述べる事ができています。
- YEAR 2の受験者の約7割は、A1.2レベルとA1.3レベルにあり、簡単な表現や平易な文を用いてやり取りをしたり、自分のことや物の位置、他人が何をしているのかなどについて、述べる事ができています。

4 分析と学習改善に向けた取組の例

	分 析	取組例
Part A	<p>Y1 ○ 個々の発音が分かりやすく、文章の意味を聞き手に伝えるのにおおむね適切に音読することができている。</p> <p>Y2 △ 発音の誤りがあったり、適切な位置に強勢が置かれていない、不自然な間があるため、一貫して聞き手に負担をかけている。</p>	ICTを活用するなどして、英語の発音をまねたり、教科書本文を自分の力で読む。
Part B	<p>Y1 ○ 質問に対して、即興で適切に答えることができています。</p> <p>Y2 △ 受験者が質問する問題において、疑問詞を適切に用いた文を作ることができず、質問の意図が伝わらないことがある。</p>	ALTやペアワークの相手に対し、自分で質問する内容を考えて、質問する。
Part C	<p>Y1 ○ 適切な語彙を適切な語順で使用し、「どこに何があるのか」について、イラストの内容について十分に説明することができている。</p> <p>Y2 △ イラストに関する説明が少なかったり、語順の誤りから、説明の意図が伝わらないことがある。</p>	身近な物や動作に関する単語を使って、語順を意識して、文で説明する。
Part D	<p>Y1 ○ 全てのイラストについて説明することができている。</p> <p>Y2 △ 一部のイラストのみを説明したり、適切な語彙を使用することができず、説明の意図を伝えることができていない。</p>	普段日常的にしていることや、過去にしたことなど、自分で文を組み立てて説明する。